



「松下村塾 in 沖永良部島」～沖永良部島に生まれたという事を卒業前に考えてみる～和泊、知名、両町による地域創生事業の一環として、5月20日（金）、21日（土）の2日間にわたり、地球環境問題や沖永良部島が直面している問題について、本校生とともに解決策を考えるというプロジェクトが開催されました。当日は、両町の方々はもちろんのこと、「松下村塾」を主宰する伊勢谷友介さんや、合同会社地球村研究室の代表である石井秀輝さんはじめとする多くの方が来校してくださいました。

初日の講演で、伊勢谷さんは、夢というのは何かになることだと考えがちだけれども、それが目的ではないという話から始められました。伊勢谷さんは、25歳で映画監督として、地図や人間の活動を抽出し、その解決策を実際の活動を紹介し、未来の実感したと語ってくださいました。

鈴木さんは、高校生の時に、プロジェクトを設立したそうです。農業や政治等の課題を抽出し、その解決策を考えているのかを紹介し、未来の実感したと語ってくださいました。

鈴木さんの話の後には、各学年で沖永良部島の発展のた

めに何をするかという話し合いました。周囲の友人たちや、講師の先生方との会話を重ねてアイデアを言葉にしていくその表情は、未來の沖永良部島のあり方にに対する真摯な

アイデアを出すだけではなく、全国直売と株式会社創設「リサイクル素材を活用したエコ制服」「SNSや島のゆ

り減少・少子高齢化という2つの制約について話された後、
「サステイナブル・アイラン

ド（持続可能な島）」のためにはこれらに同時に解を出すことが必要とおっしゃいました。その上で、「人・自然・文化が圧倒的に豊かな沖永良部島だからこそ、島が抱える制約に目を向けて、自分たちがどのように生活し、行動すべきかを考えてほしい」と語つてくださいました。

リバースプロジェクトでインターネットをしている大学生の鈴木新さんは、高校生の時に、地球や人に優しい行動・規範を守ることを決意し、リバースプロジェクトを設立したそうです。農業や政治等の課題を抽出し、その解決策を考

「未来の明るい沖永良部島の為に」 ～松下村塾 in 沖永良部島～



ました。島でPEACE CULTSを経営している竿智之さんは、都会での就職経験によって、沖永良部島出身でいることが自分の魅力となっていました。また、本校職員の林健太郎先生も、生徒に沖永良部島の雇用・人口についての課題と解決策を考えさせていることや、島だからこそできることを考え、工夫してサッカーボールの活動をなさつていることを話されました。自分たちの課題を解決するため、生徒自身が考え、工夫して活動しているという取り組みに、伊勢谷さん、石井先生も感心し、沖高生はもう島のために何をするかというアイディアを持っているのではとおっしゃっていました。

多くの話から刺激を受けた生徒たち。沖永良部島のために取り組んでいくかを考えて、ワーキシートに書いていました。周囲の友人たちや、講師の先生方との会話を重ねてアイデアを言葉にしていくその表情は、未來の沖永良部島のあり方にに対する真摯な

アイデアを出すだけではなく、全国直売と株式会社創設「リサイクル素材を活用したエコ制服」「SNSや島のゆきラを活用したPR」など、多くの魅力的なプロジェクトが発表されました。自分たちのアイデアがどんどんはつきりと意識され、現実的な形として発表できたことに、生徒たちは「自分たちにも島や地球環境をよりよく変えていく力があるという自信と喜びを実感していたようでした。

